

事業完了報告書（尼崎市）

調査研究期間等

調査研究期間	令和5年6月6日 ～ 令和6年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》</p> <p>I. 教育課程に関すること</p>
調査研究のねらい	<p>ア. 高齢者や外国人向けのカリキュラム開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪産業大学国際学部国際学科教授を教員研修の講師として招聘し多様な生徒への効果的なカリキュラムについて指導を受ける。専門的な日本語指導及び支援の視点を取り入れながら、多様な生徒に対応した教育課程の編成を行い、教育活動の充実に図る。 ・神戸YWCA学院の識字・日本語指導講師を研究授業や研究協議（年4回）に招聘し、継続的な指導を受ける。 ・日本語指導を体験的に学び、教科における授業力の向上を図る。 <p>イ. 不登校経験者支援（学齢生徒も含む）のための相談体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「無戸籍の人を支援する会」の代表者を講師として招聘し、教員の支援や相談体制の拡充を図り、多様性教育や校内支援体制を主軸においた人権教育をさらに推進する。 ・障害者差別解消や、人権教育の講師として活動をされている当事者の方を招聘し、講演会及び教員研修を開催する。講演会を通して、多様な背景を持つ生徒同士の相互理解にも力を入れ、安心して安全な学校生活の環境づくりに力を入れる。 ・特別支援教育の講師として活動されている方を招聘し、教員研修を開催する。特別支援教育の充実に図り、生徒自身が自己肯定感・自己有用感を高め日々の困り感を解消した生活を送ることができるよう支援体制を推進する。（特別支援） <p>ウ. 他市町村の夜間中学や域内の中学校、近隣の定時制高校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国夜間中学研究会、近畿夜間中学連絡協議会、兵庫夜間中学振興会における諸会議や合同行事を通して、他の夜間中学との連携強化を図る。また、先進地域での取組を情報収集するとともに、お互いの成果や課題を意見交換し、環境整備を含めた教育活動の充実に図る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・成良中学校（本校）や明城小学校（近隣）との生徒同士の交流をさらに推進する。交流を通して、生徒の自己有用感を高めるとともに、夜間中学の広報活動にも力を入れる。 <p>エ. 専門スタッフ（通訳など）を活用した教育活動の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の生徒が近年急激に増加していることもあり、学校行事や校外指導において、安全面の確保からも多文化共生支援者（通訳）等の支援が必要である。生徒が安心して学校行事に参加し、体験的な学びを深めることができるよう、多文化共生支援者（通訳）等を招聘し、安心して安全な学習環境づくりに力を入れる。 <p>オ. 経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動等の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外行事における交通費や運搬費等が高額になると、参加を断念する生徒や経済的な負担を感じる生徒が多くなる。バスやレンタカー、チャーター便の借用代金を補填することで生徒の負担を緩和し、多くの生徒が体験的な校外活動等に参加できるよう支援体制の充実を図る。 <p>カ. ICTを活用した生徒の学習活動の支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での活動を記録し、動画視聴や写真掲示を拡充させる。生徒が活動を客観的に振り返り、次年度の活動を充実させたり学習内容を個々に深めたりできるよう支援を強化する。
調査研究の成果	<p>ア. 高齢者や外国人向けのカリキュラム開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪産業大学国際学部国際学科 教授 新矢麻紀子氏を教員研修の講師として招聘し、「今日の夜間中学における識字・日本語指導について」をテーマにした教員研修を行った。「第二言語としての日本語習得に向けて、即興的対応と長期的対応」や「日本語を教える際に留意すること」など、効果的な日本語指導方法や多様な生徒への効果的なカリキュラムについて学び、意見交流を交えながら学びを深めた。 ・神戸YWCA学院の識字・日本語指導講師 斎藤明子氏を研究授業や研究協議（年2回）に招聘し、教員研修を行った。近年、中国帰国者やその家族をはじめ、新渡日のネパール人など、日本語習得を望む生徒が急増している。そのため、教科の学習以外に日本語の習

得も視野に入れた指導が求められている。そこで、「第二言語としての日本語」教育の指導について指導・助言を受けた。

イ. 不登校経験者支援のための相談体制の整備

- ・無戸籍の人を支援する会の代表 市川真由美氏を教員研修（年1回）の講師として招聘し、無戸籍の方が教育の機会や生活保護を受けられなかった現状を知り支援の在り方について理解を深めた。出生届を出さなかっただけで無戸籍となり、教育が受けられなかったなどの事例を聞くことで人権教育についての学びを深めた。
- ・視覚障害者の村上知佐子氏を教員研修の講師として招聘し、疑似体験しながら障害についての知見や視野を広げた。
- ・大手前大学 教授 芳田茂樹氏を招聘し、「生徒自身の自己肯定感を高める教育」について講話を受けた。また、実際に授業を見学してもらい、今後の授業改善やカリキュラムの改善について指導を受けた。

ウ. 他市町村の夜間中学や域内の中学校、近隣の定時制高校との連携

- ・全国夜間中学研究会第69回奈良大会では、2日間のべ8名の教員と4名の生徒が参加し、1名の生徒が全体会で発表した。また、準備段階から会議等を通して、兵庫県内4校の連携強化はもとより、全夜中研や近夜中協との関係の充実を図ることもできた。他市町の夜間中学と自校の成果や課題を聞き、質問や意見交換を行うことができた。先進地域での取組を情報収集することができ、環境整備を含めた教育活動の充実を図る上で、非常に有意義な全国大会であった。

エ. 専門スタッフ（通訳など）を活用した教育活動の在り方について

- ・外国籍の生徒が多いため、学校行事の事前指導や校外指導における支援員等を別途補完的に招聘した。言語が通じることにより、道中の安全面だけでなく、活動中の充実した学びが保障され、生徒も安心して学業に専念できた。また、生徒の体験的な学びが深まるよう配慮した。本校の生徒募集のチラシを作成する際、教員や友達の意見などの意思疎通を速やかに、また確実に行うことができた。
- ・先進校視察で東京都世田谷区立三宿中学校に教員を派遣した。「にほんご」指導に関する説明や資料提供を受けたことを校内で共有し今後の教育課程について考えることができた。

オ. 経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動等の在り方について

- ・大阪府の東生野中学校で行われる作品展に出品し、作品を通して、

自分の思いを表現でき、多数の方に観てもらえたことに、多くの生徒が喜びや達成感を得ることができた。

カ. ICTを活用した生徒の学習活動の支援について

- ・校内に行事や、日々の学習の様子を掲示し、生徒の学習意欲や充実感を高めることができた。また、授業においても、動画教材を適宜使用し、生徒の学習理解に繋げることができた。